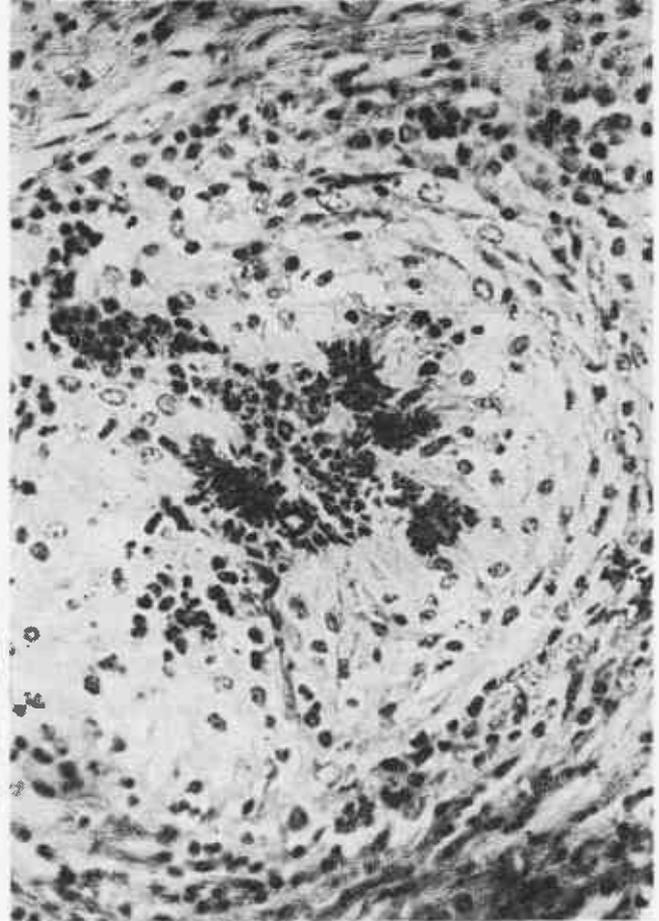
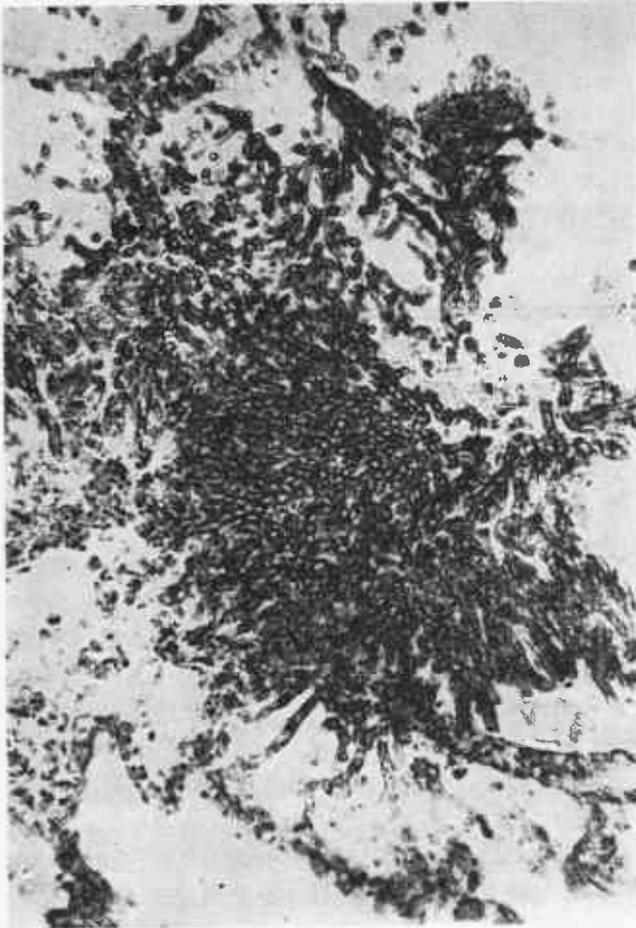


病巣より黴を検出した慢性化膿性気管支肺炎

麻布獣医科大学病理学教室出題・第6回獣医病理学研修会標本 No. 75



原因不明な疾病として廃用となつた、本症例牛の材料について、十分な病理組織学的検査を実施、下記の atypical な病巣を認めた。すなわち、中心部は、樹枝状糸状、あるいは、菌糸網を形成した菌体、充、出血、血栓形成等を含む、壊死巣からなる。その周囲に多数の浸潤細胞や崩壊組織細胞片からなる外層を認め、さらに最外側を炎症肉芽組織、肺炎像等が取り囲むものであつた。これ等壊死病巣は、周辺部より化膿が進行するものと思われ、未だ中心部に壊死した肺胞壁、菌糸等の確認出来得る、いわゆる好中球の浸潤病巣、また化膿が完全に abscess 化した病巣等、なおこれ等化膿病巣周囲の炎症肉芽組織層や肺実質内にみられた、結核や放線菌症等の結節に類似した、慢性肉芽腫の小結節病巣等、また

さらに研修会以後の切片標本において鏡検出来得た、気管枝病巣等を含めて、特殊な特徴ある病理組織学的所見であつた。さて上記病巣中にみられた菌糸は、明らかに菌糸隔壁を有し、さらに研修会以後の切片標本で証明されえた、類上皮細胞からなる小さな、肉芽腫中にみられた、胞糸形成菌体、すなわち分生子柄壁の二重構造、分生子頂囊の円体分生子列等の像は、まさに *Aspergillus* 属の黴に特有なものであつた。そこで表題に示しえなかつた黴性肺炎の事実を証明したものと考え、私どもは、牛にみられた *Aspergillus* 属黴性肺炎の組織像であつたと呼びたい。なお当大学細菌学教室で実施した培養の結果もまた同一なものであつた。